

2022. 7. 31 (日) 寺坂小学校区
会場: 寺坂地区コミュニティセンター

豊岡市立小中学校適正規模・ 適正配置計画

(保護者向け)

寺坂小校区説明会

豊岡市教育委員会事務局



1

次 第

1. これまでの経過
2. 市の現状と学校の小規模化の課題
3. 計画内容
4. 今後の進め方
5. 意見交換

2

1. これまでの経過

3

これまでの経過

➤ 豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画

- 2020年2月～2021年2月 審議会
- 2020年9月～10月 小中学校のあり方意見交換会 (中間案)
- 2021年7月 答申説明会
- 2021年11月～12月 計画(案)説明会
- " パブリックコメント

 2021年12月 計画策定

4

審議会での意見

- ・小規模校の良さは認めるものの、複式学級が生じるほどの極小規模になると課題の方が大きい。
- ・子どもたちには多様な意見に触れ、いろいろな体験をしてほしい。
- ・保護者の不安の多い複式学級の解消を最優先とすべき。

審議会での意見を尊重しつつ、説明会等で寄せられた意見を踏まえて計画を策定



「次代を担う豊岡の子どもたちにとって、より良い教育環境とするために、学校はどうあるべきか」

5

2. 市の現状と学校の小規模化の課題

6

学校の小規模化が進むことによる課題

◆小規模校には小規模校の良さがあります

【メリット】

- ・児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。
- ・学校行事や部活動等で、児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。
- ・児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。
- ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。
- ・保護者や地域社会との連携が図りやすい。

7

学校の小規模化が進むことによる課題

◆その一方で課題もあります

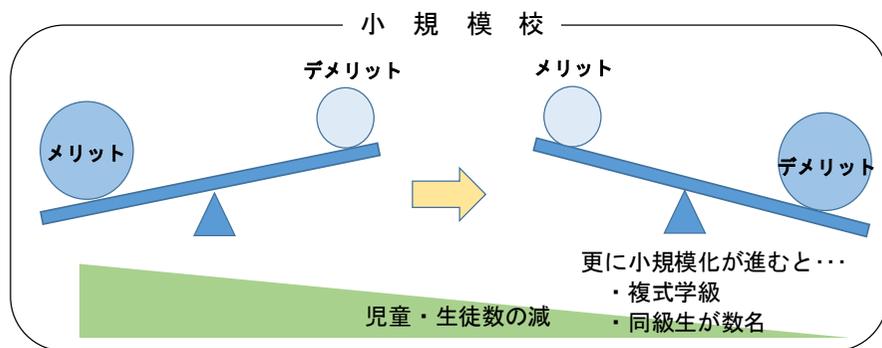
【デメリット】

- ・多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- ・人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
- ・運動会や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。
- ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。
- ・PTA活動等、保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

8

学校の小規模化が進むことによる課題

- ◆ 特に複式学級が生じたり、同級生が数名のみになるなど、学級の人数が少なくなるにつれて課題は大きくなっていきます。



9

寺坂小校区の子どもの数

2022年度 単位：人

小学校 区別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	未就 学児 計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小学生 計
寺坂小	4	1	3	7	1	1	17	7	5	6	6	4	2	30

寺坂小 児童数 見込	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
	30	29	26	27	24	20	17

10

学校規模適正化の必要性

- 1 学校の規模は、学習面、生活面、学校運営面など様々な影響を与えます。
- 2 公教育の観点から市内のどの学校でも、教育水準・教員の配置などの教育条件・教育環境について一定の水準を満たし、公平に提供するよう努めなければなりません。
- 3 個性を発揮させ、主体性や多様性を培うためにも、ある程度の集団規模での教育環境が日常的に確保されるべきであると考えます。

11

学校規模適正化の必要性

- ・ 国の学習指導要領「主体的・対話的で深い学びの実現」
- ・ 市のめざす教育〔コミュニケーション能力や非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）の育成〕の取組
- ・ 集団での教育活動等の充実
- ・ 教員の人数の確保と質の向上

12

(参考) 竹野小の児童の声

竹野小学校
学校だより5月号から
「学校統合アンケート」の結果

- 人数が増えてとてもにぎやかになって、みんなで遊ぶことが楽しくなりました。大勢で遊ぶ方が楽しいです。
- 統合して良いことは、人数が増えておにごっこのときにつかまりにくくなったことです。
- 統合して変わったことは、人数が多くなって、いろいろな人と仲良くなれたことです。
- 中竹野小学校ではできる遊びが限られていたけど、今は人数がとても多くて、遊びがたくさんできるようになりました。
- だいきゅうけいや昼休みなどもみんなの笑い声が広がっています。前の学年のときよりも笑い声がたくさんでて、楽しくなっています。
- とても人数が多くなって、いろいろな意見が出るようになりました。
- 授業のときいろいろな意見が出るのでおもしろいです。

13

竹野小学校
学校だより6月号から

オープンスクールを開催しました！

6月17日(金)に実施しましたオープンスクールにはたくさんの保護者の皆様にお越しいただきありがとうございました。ご家族のみ参加可能という制限の中でしたが、100名以上の方に来ていただきました。当日は学校評議員会も開催いたしました。意見交流で「元気に遊ぶ姿や発表する姿があって学校に活気がある。」「統合により1クラスの人数が多くなっている。一人一人に対しきめ細やかに学習指導をしてほしい。」「昼休みが短く感じた。もっと遊ぶ時間を確保してやってほしい。」などのご意見をいただきました。



複数の教員による授業運営や学級を半分に分けるハーフサイズ授業、定期的に子どもたちがたっぷり遊べる大屋休みの設定などにより、子どもたちが生き生きと活動する学校づくりを行っていきたいと思います。

1クラスの人数が少なければ、先生の目は届きやすくなります。しかし、子どもたちは自分で考えようとせず、何でも先生に尋ね、助けを請います。それでは自主性・主体性はなかなか育ちません。

学校のスローガンは「させられる自分からする自分へ」です。統合により児童数が増えました。それを「強み」と捉え、大人数のクラスで、直面する課題に対し自分で考え、自分で解決する力、多様な考えに触れ、折り合いをつけながら仲間と協働して解決する力を育成していきたくと考えます。何とぞご理解とご協力をお願いいたします。

14

3. 計画内容

◆計画の期間

2022年度から2031年度までの10年間
(10年後以降の姿も見据えた計画とする)



◆計画の進め方

保護者や地域住民との十分な合意形成を図りながら進めます

15

16

適正規模の考え方

市の実情を考え、

- ①望ましい学校規模（理想とする姿）と、
- ②最低限確保したい学校規模（下限の目安）を設ける

複式学級が生じない

	望ましい学校規模	最低限確保したい学校規模
小学校	12～18 学級 (クラス替えが可能)	6学級以上 (各学年1学級以上)
中学校	9～18 学級 (十分な教員が配置可能)	3学級以上 (各学年1学級以上)
		(小中学校とも、 各学年20人程度以上)

17

適正配置の考え方

通学時間と旧市町ごとの歴史的・社会的背景を考慮した学校配置とする

- ア 通学時間 概ね1時間以内とする
※遠距離では、交通手段の確保が前提
- イ 小学校の再編は、原則、同一中学校区内とする
- ウ 中学校の再編は、原則、旧市町域内とする

原則、旧市町域内に小・中とも1校は存続

18

学校再編の基本方針

- ・ 学校統合
- ・ 施設一体型小中一貫校として再編・整備
(要件が満たされる場合)

学校再編の優先順位

1. 最優先	・ 既に複式学級が生じている小学校
2. 優先	・ 将来的に複式学級が生じると見込まれる小学校 ・ 小規模化により課題が生じる中学校
3. 将来的な検討	・ 「最低限確保したい学校規模」(1学年20人程度)をめざし、将来的な学校のあり方について地域と検討

19

出石地域の再編の枠組

豊岡市立小中学校 適正規模・適正配置計画 スケジュール

地域	対象校	前期					後期					10年後以降(令和14年度以降)		
		令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度	令和10年度 2028年度	令和11年度 2029年度	令和12年度 2030年度		令和13年度 2031年度	2032年度以降
出石	弘道小													
	福住小			80人										
	寺坂小			29人										
	小坂小				72人									
	小野小				53人									

2024年度 児童数見込
児童 102人 学級数 6

2025年度 児童数見込
児童 109人 学級数 6

「小学校を1校」への再編検討
(地域からの意見を踏まえて)

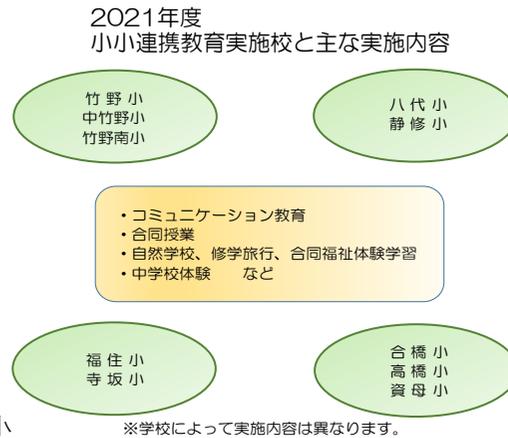
20

枠組み（寺坂小と福住小）の考え方

- ① 小小連携教育を実施しており、顔なじみの友だちがいる
- ② 旧室埴村内であり、歴史的なつながりがある

※中間案の段階では弘道小との再編も案として検討、地区説明会にも提示し、意見を求めた

→ 説明会での意見を踏まえ、審議会の審議を経て寺坂小と福住小の枠組みとした



21

出石地域で小学校を1校とする考え方

- 適正規模・適正配置にかかる地区説明会や、地域デザイン懇談会でも「出石地域で小学校を1校に」との意見が出されている
- ただし、出石の5つの小学校を1校にするには多くの調整が必要
例：すべての地域からの同意
出石中学校との施設一体型とすることが可能か
学校の設置場所の確保
それぞれの学校の教育内容等を統一
その他 学校名、校歌、校章の検討 等

これらの調整には相当の期間が必要であることから、まずは、現在の複式学級の解消が優先であると考え

22

4. 今後の進め方

- (1) 保護者向け説明会
- (2) 地域住民向け説明会
- (3) 寺坂地域内での検討
- (4) 「寺坂小学校を考える会」等 地区の検討組織設置



統合の了承

- (5) 統合準備委員会設置

23

5. 意見交換

24

出石地域 小学校区別児童数

年齢別児童数 (5歳児までは2022.4.8住民基本台帳より 小中の児童生徒数は5月1日現在の実数) 単位:人

小学校区別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児 (幼)	就学前 児童数	6歳児 (小1)	7歳児 (小2)	8歳児 (小3)	9歳児 (小4)	10歳児 (小5)	11歳児 (小6)	小学生 児童数
弘道小	25	22	18	19	27	23	134	31	29	32	38	40	42	212
福住小	9	4	12	13	10	13	61	11	6	16	16	15	21	85
寺坂小	4	1	3	7	1	1	17	7	5	6	6	4	2	30
小坂小	5	10	9	10	11	7	52	13	12	11	20	19	12	87
小野小	4	4	7	5	8	6	34	8	10	10	11	9	6	54
出石計	47	41	49	54	57	50	298	70	62	75	91	87	83	468

0歳児: 2021.4.2~2022.4.1生まれ

全校児童数見込

小学校区別	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
弘道小	193	180	161	147	140	134
福住小	77	72	69	65	63	61
寺坂小	29	26	27	24	20	17
小坂小	82	74	64	62	60	52
小野小	54	53	47	44	38	34
出石計	435	405	368	342	321	298

25

学校再編にあたって配慮すべき事項への対応

豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画(概要版)より

1 児童生徒への配慮

学校再編によって、児童生徒の環境が大きく変化することへの対応

- (1) 子どもたちへの理解と心のケア
 - ・ 定期的なアンケートの実施による心境変化の把握と対応
 - ・ 相談体制の充実
- (2) 学校間交流
 - ・ 統合前に学校間での交流の機会を確保
- (3) 教員の統合加配制度の活用
 - ・ 統合後の学校に元の学校の教師を配置
- (4) 特別支援教育への対応

26

学校再編にあたって配慮すべき事項への対応

2 通学への配慮

通学方法が変わることや通学時間が長くなることへの不安や負担の軽減、安全対策等

- (1) 通学路の安全確保…通学路の安全点検、見守りボランティアの協力
- (2) 遠距離通学者に対する通学支援…通学バスの運行方法等の検討、バス通学訓練の実施

3 放課後児童クラブ利用者への配慮

- ・ 放課後児童クラブは、小学校施設内又は隣接地での設置を基本としています。
- ・ 学校が遠方になることにより、
 - ①保護者の送迎に負担が生じる、
 - ②児童の帰宅時間が遅くなり、生活習慣に影響が生じる等が想定される場合には、負担軽減の方法について検討します。

27

学校再編にあたって配慮すべき事項への対応

4 地域の拠点機能としての配慮(学校の跡地の有効活用)

- ・ 学校は、児童生徒への教育的機能が第一ですが、地域の拠点機能も担うことから、跡地の利活用について早期に検討を始める必要があります。
- ・ 利活用は、地域の意向、ニーズに配慮し、①市の事業、②公共的な団体等による事業を検討し、その次に③民間事業で地域の活性化につながる活用を模索します。
- ・ 活用策の検討は、地域と協議・調整を図りながら進め、活用策が決まるまでの間は、引き続き地域での利用ができるよう配慮します。

28